

龍谷大学と地域社会による双方向型地域連携の推進について

龍谷エクステンションセンター事務部

西坂 正雄

1. 龍谷大学における社会連携・社会貢献の歩み

龍谷大学は、1980年代後半より、「教育」、「研究」に「エクステンション」を加えた3つの機能を大学の柱とすることを大学として決定し、地域社会とのつながりを踏まえた事業に取り組んできました。「エクステンション」とは、「普及」の意味を持ちます。本学は、本学の教育・研究等を社会に広く発信することで、社会との連携をはかり地域社会に貢献することを目指してきました。現在の日本の大学では、大学における社会貢献機能は教育・研究と並び必須の要件・機能ですが、日本国内で大学に社会貢献機能が求められることとなったのは2000年代中旬以降であり、本学では、これらに先駆けて、いち早く大学の使命として社会連携・社会貢献に取り組んできました。

本学の社会連携・社会貢献に関する取り組みは、1991年に滋賀県大津市の瀬田キャンパスに「龍谷エクステンションセンター」(REC<レック>)を設置したころから本格化します。大学の知的資源を地域社会に普及するという内から外への方向と、地域社会が抱える課題を大学に取り込むという外から内への方向とを「双方向」で機能させることを特徴とし、まずは滋賀県を拠点として地域社会との連携を深めていきました。その10年後の2001年には、京都市伏見区の深草キャンパスにもREC京都を設置し、京都エリアにおいても、地域社会と大学とを双方向に繋ぐ架け橋としての役割を担うこととしました。

その後、日本では、少子高齢化や福祉、環境に関わる問題、地域・伝統産業の衰退など様々な社会問題が喫緊の課題として取り上げられるようになり、さらには東日本大震災以降、防災、エネルギーに

関わる問題などが、地域の重要な課題として認識されるようになりました。日本が直面している人口減少局面における地方創生施策においても、大学に対する期待は日増しに大きくなっています。

本学は、これらの様々な社会問題に対し、エクステンション事業としてのみならず、教育、研究はもちろん、大学のあらゆる場面において社会連携機能を有するべきであるとの考えに立ち、社会連携・社会貢献を促進する全学的な体制を整え、「ゼミ型、講義型」「研究会型」「サークル型」など、様々な形で学生や教職員による取り組みを行ってきました。

■ 龍谷エクステンションセンター：



<https://rec.seta.ryukoku.ac.jp/index.php>

2. 地域連携拠点の形成

これらの取り組みが進むことに併せて、施設面の整備も進めてきました。2013年には、深草キャンパス近隣の築150年の町家を改修し、地域連携、社会貢献活動の拠点として「龍谷大学 深草町家キャンパス」を開設しました。「深草町家キャンパス」は、授業やサークル活動での利用はもちろんのこと、学生有志によるプロジェクト型の取り組みにも活用されています。



上の写真は「深草町家キャンパス」の内装。左が「みせにわ・みせ」、右が「中庭・ざしき」

このようなキャンパス近隣地域での拠点形成に加え、様々な社会問題をテーマとした広範な地域との連携も進めてきました。エネルギー問題・環境問題に関して、本学は学内外の専門的な知見をもとに、再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度を活用した事業モデルを構想し、実現に結びつけました。2013年、全国で初めて自治体・企業・大学が連携して設置する地域貢献型メガソーラー発電所「龍谷ソーラーパーク」を和歌山県印南（いなみ）町と本学深草キャンパスに設置し、その後、三重県鈴鹿市、兵庫県洲本市にもメガソーラー発電所を設置しました。この発電による売電収益は、本学の地域活性化に資する事業の原資として活用されているほか、各自治体に対しては助成金として還元され、例えば若者誘致事業に活用されるなど、地域振興に生かされています。



上の写真は「龍谷ソーラーパーク」。左が和歌山県印南町、右が兵庫県洲本市。

■ 龍谷大学 深草町家キャンパス：



<https://www.ryukoku.ac.jp/fukakusamachiya/>

■ 龍谷ソーラーパーク：



<https://www.ryukoku.ac.jp/about/solar/>

3. 学生の自主的活動への支援拡大

多様で幅広い地域を対象に、本学の社会連携・社会貢献事例は増え続けています。その中で、2016年からは、京都市と（公財）大学コンソーシアム京都（京都を中心とする48大学・短期大学等で構成される公益財団法人）の支援（『学まち連携大学』促進事業への採択＜2016～2019年度＞）を受けることで、学生や教職員の地域連携活動について対象を全学部に拡げて支える基盤が整いました。この支援をもとにして「多世代・多文化協働による地域連携型教育プログラムの展開」をはかるとともに、前述のメガソーラー発電の売電収益による資金を加え、社会連携・社会貢献活動に関して学生の自発的な取り組みを支援する制度を設けました。自己応募・採択型支援制度「龍谷チャレンジ」や、活動地域への移動旅費などを支援する「地域連携活動旅費サポート制度」など新設がこれにあたります。従来のゼミや講義による活動以外に、学生有志での自主活動にも寄り添い支える仕組みが、現在も続いています。

■「学まち連携大学」促進事業【2016～2019年度】（大学コンソーシアム京都）：

<https://www.consortium.or.jp/project/chiiki/sokushin/2016-2019>



■龍谷チャレンジ：

https://rec.seta.ryukoku.ac.jp/region/support_system.html



4. 地域連携事例の集約と発信

上述のように、正課授業の一環から学生の自主的活動においてまで、本学では多様で幅広い地域連携活動が行われてきました。これらを大学として網羅的に集約し、学内者での共有と学外への発信を目的に、2008年に「龍谷大学 地域連携事例集」をRECのとりまとめにより刊行しました。この事例集では、「大学の知的資源を社会につなぐ架け橋に」というRECのスローガンや「『大学と地域との双方向サイクル』を築く」というコンセプトのもとに、文部科学省や京都市等の採択事業への応募・採択事例や、教育・研究等の中で生み出された地域連携活動事例を、「ゼミ型」「研究会型」などのカテゴリーに分け紹介しました。これにより、京都・滋賀のキャンパスを越えて、大学全体で地域とどのように関わっているかを顕在化し共有することができました。

この事例集は、2014年からは「with Dragon」と名称を変えて隔年で発行。更に2016年には、Webサイトである「地域連携シーズバンク『with Dragon』」を開設し、インターネットを介して本学の取り組みを広く発信しました。一方で、学内特に学生に対し地域連携に対する意識の醸成を図るため、地域連携に関する情報を簡潔にまとめた小冊子「地域連携 Handbook」を作成し、新入生全員に配付しました。これらの情報発信は、大学と地域との連携を深めるうえで、地域連携に興味を持つ学生や地域住民の方々に、大学と地域との連携イメージを持ってもらうきっかけとなりました。今後も「地域に根ざした大学づくり」を目指して地域連携活動を推進することで、学生の成長と地域の活性化に寄り添いたいと考えています。

「地域連携シーズバンク『with Dragon』」は、その後上述の「ゼミ型」や「研究会型」などカテゴリーから、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の17のゴールをもとにしたカテゴリーに移行し掲載しています。「SDGs」に関して、本学では、建学の精神である浄土真宗の精神の中核にある阿弥陀仏のはたらきを示す語の「摂取不捨」（すべての者をおさめとって見捨てない）と、

SDGs の理念である「誰一人取り残さない」に共通点を見出し、「仏教 SDGs」という独自の視点で多様な取り組みを展開しています。2019 年の創立 380 周年では、周年事業の基本コンセプトとして、行動哲学「自省利他」を掲げました。この「自省利他」は、仏教のもっとも古い教えのひとつで、自らの行いや属する集団を常に省みて、他者のために行動する精神を指します。このような建学の精神と SDGs の親和性から、現在、大学広報の一環として、仏教 SDGs 特設サイト「みんなの仏教 SDGs ウェブマガジン『ReTACTION』」を開設し、仏教 SDGs に通じる取り組みを紹介しています。今後は、これらサイトとも相互連携し、地域社会の問題解決に繋がるような社会連携・社会貢献に取り組めます。

■地域連携シーズバンク「with Dragon」：



<https://withdragon.rec.seta.ryukoku.ac.jp/>

■仏教 SDGs 特設サイト「みんなの仏教 SDGs ウェブマガジン『ReTACTION』」：



<https://retaction-ryukoku.com/>

以 上